

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)イオン新潟西区黒崎物件 新潟県新潟市西区山田19-1他 準工業地域 物販店,飲食店, 2025年3月 予定 10,184.23 m ² 4,463.56 m ² 4,883.48 m ² 地上2F S造 実施設計段階評価 2024年3月25日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43.8}{39.5} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★ B: ★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 2.8		バリアフリー計画 維持管理 設備の更新性	Q2.1.1.3 Q2.1.3 Q2.3.3	3.0 2.5 3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.7		耐震・免震・制震・制振 信頼性	Q2.2.1 Q2.2.4	3.0 2.4
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 2.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.9		建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用	LR1.1 LR1.2	4.7 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 2.3		節水 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.1.1 LR2.2.4 LR2.2.6	3.0 1.0 3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 1.5		生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上	Q3.1 Q3.3.2	1.0 2.0
7. 新潟のまちらしさへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 2.5		まちなみ・景観への配慮 地域性への配慮、快適性の向上	Q3.2 Q3.3.1	3.0 2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

CASBEE® 新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イオン新潟西区黒崎物件	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市西区山田19-1他	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,110 時間/年(想定値)
建物用途	物販店・飲食店、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2024年3月25日
敷地面積	10,184 m ²	作成者	前田幸陽
建築面積	4,464 m ²	確認日	2024年4月1日
延床面積	4,883 m ²	確認者	伊藤公

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1 ★★★★</p>	<p>30% ★★★★★ 60% ★★★★ 80% ★★★ 100% ★★ 100%超+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもの</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)	Q 環境品質	Q のスコア= 2.7
	<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.1</p>
	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.0</p>	
LR 環境負荷低減性	LR のスコア= 3.4	LR3 敷地外環境
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.3</p>		<p>LR3のスコア= 2.9</p>

3 設計上の配慮事項	
総合	建物ができる限り前面道路からセットバックした計画とした
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
使用する内装材はF★★★★とする設計条件としている。	ゆとりのある空間となるように階高に余裕を持たせている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
可能な限りLED照明を採用した。	ODP=0の発泡剤や冷媒を採用した。
Q3 室外環境 (敷地内)	LR3 敷地外環境
道筋に面した部分に低木・中木・高木をバランスよく配置した植栽計画を積極的に行い、緑と潤いのある空間を目指している。また、樹種についてはこの地域で生育しやすい樹木を選定している。長スパンの建物が単調な外観とならないように、高さにリズムを付けたスカイラインとした。	自転車置場等を適切に計画することにより、交通負荷抑制に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される